

「言語活動を通して」資質・能力を育成する

もっと詳しく調べたい!「学習評価」と「専門用語」

□ 「言語活動」とは 小ガp.23

「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」～言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。～言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。～つまり、英語を用いず、日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動は、外国語活動や外国語科においては言語活動とは言い難い。一方で、英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合うという要素がない活動も言語活動であるとは言い難い。例えば、発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動は、言語活動ではなく、練習である。練習は、言語活動を成立させるために重要であるが、練習だけで終わることのないように留意する必要がある。



言語活動
「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動



理解や練習するための指導
英語を用いず、日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動
英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合うという要素がない活動
発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動 など

① 「言語活動」の取扱いが変わったよ。



□ 「言語活動を通して、資質・能力を育成する」とは 小解p.29,100(活動),43,123(配慮) 小ガp.23中解p.54(活動),85(配慮)

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	第9時

【準備→練習→発表】の過程による単元計画にとどまらず、「言語活動→指導→言語活動」の繰り返しがある単元計画の立案も。

反復練習をひたすら繰り返してから言語活動を行うのではなく、導入や最低限の練習の後、まず言語活動に取り組ませ、その後で文構造や文法事項の指導を行い、再び言語活動に取り組むようにする。単元や授業の中で、繰り返し言語活動に取り組むようにする。
(文部科学省提供資料から)

② 言語活動の特徴(例)

- A 目的、場面、状況がある。
- B Aのため配慮が生まれる。
- C 考えなどを表現したり伝え合ったりしている。
- D Cのため、伝えたい「内容」だけではなく、伝えるための「英語表現」も、子どもが思考・判断している。
- E ターゲットセンテンス以外の英語もおおのずと使用する。



□ 「目的・場面・状況」とは 中解p.14(目標)

目的：コミュニケーションを行うことによって達成しようとする目的
場面：話し手や聞き手を含む発話の場面
状況：コミュニケーションを行う相手との関係性やコミュニケーションを行う際的环境

□ 「目的・場面・状況を設定した言語活動」の効果とは 小解p.15,71(目標),53,132(取扱) 中解p.14(目標),97(取扱)

例えば、ある情報を得るために読む際には、単に1つの情報をうのみにするのではなく、他の情報と比べるなどして精査する必要がある。また、意見を述べる際には、考えを整理したり話す内容の構成を考えたり、相手に応じた表現を選択したりする。このように、「目的や場面、状況など」に応じた言語の運用を考えることで、「思考力、判断力、表現力等」が育成される。

③ 伝えたい「内容」だけではなく、「どのような英語を使えばいいのかな?」と、子どもが伝えるための「英語表現」を思考・判断することが大切です。そのためには、「目的・場面・状況」を設定した「言語活動」が有効です。

「How much」を使って、「買物」をしてみましょう。

日曜日、ハンバーガー店で、自分の家族の昼食に、2,000円で「買物」を頼まれました。

なぜ、誰に、買物するの? どこで、何を、買物するの? 「How much」って答えかな?

よし、目的・場面・状況が分かった。どのような英語を使えば…? How,How,えっと?

□ 「学習評価」関係

- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料:令和元年度(国立教育政策研究所)
- 学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編):令和元年6月(国立教育政策研究所)
- 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知):平成31年3月29日(文部科学省)
- 児童生徒の学習評価の在り方について(報告):平成31年1月21日(中央教育審議会)

文部科学省
<http://www.mext.go.jp/>



mext channel
<https://www.youtube.com/user/mextchannel/>



教職員支援機構
<https://www.nits.go.jp/>



国立教育政策研究所
<http://www.nier.go.jp/>



コア・カリキュラム
<http://www.u-gakugei.ac.jp/~estudy/>



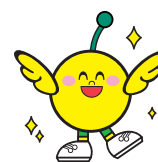
えいごネット
<http://www.eigo-net.jp/>



県教育センター
<https://center.fcs.ed.jp/>



! さあ、コンパスを開いて、いっしょに授業づくり!



□ 「専門用語」関係

- CAN-DOリスト:学習到達目標を「～できる」の形で設定し、言語活動を表した記述文のリストのこと。
 参照:各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標設定のための手引き(平成25年3月文部科学省初等中等教育局)
- CLIL:「グリル」Content and Language Integrated Learningの略。内容言語統合型学習。言語教育と他教科の内容教育を統合するもの。
 小解p.45,125(配慮) 小ガp.50,86,103中解p.88(配慮)
- FonF:「フォーカス・オン・フォーム」Focus on Formの略。意味理解中心の活動の中で、時折、形式の指導にシフトするもの。
 中解p.67(活動),93(取扱)

⑤ 特に教科化の5・6年生は、学習評価が大切!教材や資料、動画など、積極的に検索しよう。この他にも、パフォーマンステスト等を調べてみよう。
※読み込みが難しい場合、他のコードを手で隠してみよう。



□ 言語活動をチェック!

□ 詳しい情報をチェック!

□ 目的・場面・状況をチェック!

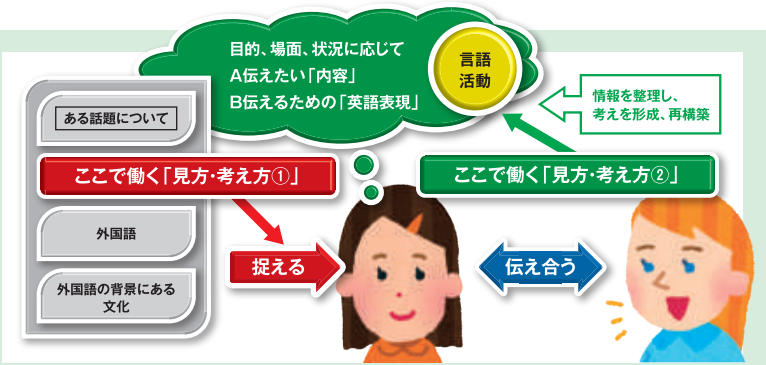
□ 見方・考え方をチェック!

□ 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは 小解p.11,67(目標) 中解p.10(目標)

【見方・考え方①】外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、【見方・考え方②】コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

- ・ 右記のイメージ図では、便宜上、「見方・考え方」を、①と②の2つに分けて示しています。
- ・ 特に、言語活動を通して資質・能力を育成する際、「見方・考え方②」において、A伝えたい「内容」だけではなく、B伝えるための「英語表現」を児童・生徒自身に考えさせることが大切です。

(文部科学省 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 及び 教育課程課 教科調査官 山田 誠志 氏の図を参考に義務教育課で作成)



「目的・場面・状況」を設定した言語活動(特に小学校高学年及び中学校)

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて「見方・考え方」を動かせる

略称 小解:小学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語活動・外国語編
中解:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語編
小ガ:小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック

② 参考資料及び動画等について、リンク先のページやURL等を追記し、自分だけのオリジナル・イングリッシュ・コンパスにするのもいいですね。